神楽名 高鍋神楽

六社連合大神事

伝承地 （高鍋神楽伝承地）

高鍋町・木城町・新富町
川南町・都農町・美郷町南郷区 等

（六社連合大神事）

八坂神社・愛宕神社（高鍋町）
比木神社（木城町）・八幡神社（新富町）
平田神社・白鬚神社（川南町）

指定等 県指定　無形民俗文化財

伝承団体 高鍋神楽保存会

御神楽（一番神楽）

❖ 神楽の概要・由来・その他

高鍋神楽は、「高鍋神楽」「都農神楽」「三納代神楽（八幡神社）」の三つの神楽が融合し構成されている。そして高鍋神楽の「六社連合大神事」は、高鍋藩を領した秋月氏が特に崇敬した領内の六つの郷社が、輪番で神楽奉納を行う伝統芸能である。

高鍋藩初代藩主である秋月種長公の姫君が大病を患った折、藩に仕えていた大寺余惣衛門が木城町比木神社へ千日間参拝し祈願し続けたところ平癒し、その報恩感謝のため神楽を奉納したことが、六社連合大神事の原形となる「神事」のはじまりといわれる。

明治の世に入り、神仏分離運動や廃藩置県などの政策によって高鍋神楽存続の危機が訪れるも、大正６年（１９１７）の高鍋神楽保存会設立計画を契機に、伊勢神宮での奉納神楽に参加し、その名を知られるようになる。その後、第二次世界大戦をはさみ敬神の心も薄れるも、昭和３０年頃より神職有志によって高鍋神楽保存会結成の運びとなり、年に一度六社の神楽を統合して輪番で奉納する、現在の六社連合大神事の形が作られていった。６年に一度の役目を担う神社は、境内に「山」と呼ばれる神籬を建て、規模の大きな斎庭を設える。この山作り作業を「氏入の行事」といい、終了すると神楽三番を奉納し、山立ての成就を祝い、斎庭の清めを行う。

❖ 芸能の機会・場所

- 六社連合大神事...旧暦の１２月２日に近い土・日曜日に輪番で奉納
  （比木神社の当番年のみ比木神社の例祭日に合わせ奉納される）

❖ 演目一覧

御神楽（一番神楽）	花の手	覡	鬼神舞	花の手
手力	闢開神楽	闢開鬼神	将軍舞	伊勢舞
御柴荒神	問　神主	蛇切	磐石舞	振揚舞
四人剣	寿之舞	鬼神	岩通	舞揚
手力雄舞	戸開雄舞	繰卸舞	神送神楽	

※平成３０年（２０１８）１２月に奉納された演目に基づく

❖ 演目の特徴

舞は「座舞」「居舞」と呼ばれる腰を低く落として舞う所作が多く見られる。演目は「序」「破」「急」の三段構成になっている。「序」で清浄な山、斎庭に神々を招く舞が続き、「破」で庶民の祈りを現し、中でも象徴的な舞「磐石舞」は、子孫繁栄、五穀豊穣の原理を教示するユーモラスな舞で笑いを誘う。「急」は岩戸開きの神楽が続き、「神送神楽」でお招きした神々に元の御座にお鎮まりいただく。最後は斎庭にて「玉千穂神の御前にかくしこそ仕えまつらね万代までに」と神歌を唱和し、神々への感謝、明日への祈りを捧げる。

❖ その他の特徴

- 面. . . 鬼神之面、闢開鬼神、磐石之面、寿之面、手力雄之面、戸開之面　等
- 楽. . . 太鼓、笛
- 装束. . . 狩衣、白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、大口袴、襷、面帽子、毛頭、烏帽子、天冠　等
- 採り物. . . 鈴、扇、御幣、面棒、刀、弓、矢、榊、三宝、籠、擂り粉木、杓子、椀　等
- 文書. . . 「日向高鍋神樂番附及縁起」（大正６年３月　浦幸次郎記）
  「高鍋神楽」（昭和５４年度　高鍋神楽保存会）
  「三納代神樂記」（昭和５３年再録　八幡神社蔵）　等を保管

❖ 伝承の現状・課題

高鍋神楽の継承地が数町に及んでいるため、「高鍋神楽保存会」は主に行政が尽力している。「高鍋神楽会」は戦前に発足した神楽舞専門の集団であり、元々は神職神楽であったが、現在は一般に門戸を拡げ、近年では子ども神楽の育成にも力を注ぎ、後世に伝える活動を精力的に行っている。平成３１年(２０１９)３月現在、舞手は３２名である。平成２９年には伊勢神宮にて１００年ぶりの神楽奉納を果たし、さらに、平成３０年には全国民俗芸能大会で神楽を披露した。

鬼神舞

舞揚

繰卸舞

宮崎県教育委員会　文化財課　平成３１年（２０１９）３月発行